



佐川美術館へ行こう

千住 博「水の調べ、水の響き」



バスツアー

《行程》 集合場所：JR 新大阪駅前バス駐車場 集合時間：8:15

JR 新大阪駅バス駐車場 → 佐川美術館鑑賞 → 洗心寮にて昼食 → 井筒八つ橋本舗にて買い物 → JR 新大阪駅バス駐車場

8:30 出発

10:15~12:15

13:00~14:15

14:45~15:20

16:00 頃到着

【佐川美術館】 平山郁夫(日本画家)、佐藤忠義(陶芸家)、樂直入(陶芸家)を常設

スムーズな流れでしたネ

四季の移ろいに映える建築美

外観は切妻屋根と落ち着いた色調の素材で統一し、周囲の田園風景や琵琶湖の色と違和感なく溶け込むよう配慮されている。建物の高さを抑え、水平ラインを強調することで、空と水面の広がりを壊さないことを重視

美しすぎる！



水上に浮かぶ神殿のような静けさをたたえる



千住 博

1995年現代美術展『ヴェネツィア・ビエンナーレ』において、東洋人初の名誉賞受賞
自然の姿を写し取るにとどまらず、生命の循環や時の流れ、人と自然との関わりといった普遍的なテーマを静かに語りかける

岩絵の具とは

千数百年続く伝統的画材
様々な鉱石や貴石などの鉱物を細かく砕いた絵の具のこと

ウォーターフォールシリーズ

*ウォーターフォール

代表的なモチーフ “滝”

飛沫をあげながら、滝壺へと消えていく水の流れを描く

*フラットウォーター

キラウェア火山の裾野に広がる荒涼たる大地、溶岩が海に流れ込む様を描く

*ウォーターフォール・オン・カラース

色彩が消えたコロナ禍、「失われた色をもう一度」という想いで描く。滝の内側から外を観るという視点。蛍光塗料を使うことで夜の感覚を現わし、人工照明も使用



浮かぶ茶室



千住 博氏のインタビュー映像(30分)

魔法の美術館Ⅳで
動きに合わせて、変化する光を
追いかける女の子



近江牛美味しかった!



ミュージアムへ行こう5!の受講生 41人

三鈷の松

松の葉が三葉になっている松の木
石山寺の三鈷の松は、葉先が長いのが特徴



膳所【洗心寮】



石山寺の「三鈷の松」

“雑感メモ”

- *水庭が美しい佐川美術館、初めて行きました。展示室もゆったりしていて、気持ちがほぐれます。
石山寺近くの昼食も美味しく、素敵なバスツアーありがとうございました♥
- *絵の具を上から垂らすフォール、人間の手でなく自然の重力で滝のリアリティを表現しているのを知り、着想が凄いと驚きました。「フォール」より「フラットウォーター」が日本画を感じ、好きです。
岩のゴツゴツさの表現に、岩絵具の特徴が生かされていると感じました。
広々とした自然の中に、静かに佇む佐川美術館は素敵でした。
- *近年は貴重な古裂を使用した軸装の作品に挑戦、ウォーターフォール春夏秋冬は圧巻でした。
千住 博氏が伝統と革新の世界に挑戦し続ける姿を見る事が出来、心に豊かな余韻が広がり、美術館を後にしました。
- *事前学習もないままに、初めてのバスツアーはバスに乗る前からドキドキ。建物自体が芸術的で、周りに張られた水に反射する光や流れる水の美しさは正にアート♥何処を撮っても絵になる素敵な場所でした。



4班全員集合

*佐川美術館、いい美術館でしたね。あのゆったりした空間が何ともいえませんでした。味わい深い作品が展示され、思わず立ち止まりました。佐藤さんの彫刻も動きがあり、良かったです。水彩画のタッチが、とても気に入りました。とてもいい一日でした。

*雑感メモにご協力頂いた皆さん、ありがとうございました。

(4班 広報)